

概要

- 綾坂地区アスパラガス部会は、高齢化により栽培を取りやめる生産者がいる一方、**本県オリジナル品種「さぬきのめざめ」**に魅力を感じ、**新規での栽培を希望する若い生産者が増えている**。
- このため、普及センターでは、新規生産者に対して、**土壌水分環境を良好に保つ水分管理と地下水位の「見える化」**によるかん水の適正化など**新規生産者の早期安定生産に向けた支援**に取り組んだ。
- その結果、現地講習会等で新規生産者がベテラン生産者に支援を受けながら見学体験することで**作業イメージの定着と生産者間のつながりの形成が図られた**。また、地下水位の「見える化」については、**取組生産者が前年比約1.5倍となり、単収が前年比約1.3倍**になった生産者もいた。

具体的な成果

1 新規生産者の早期安定生産

- 現地講習会でベテラン生産者のアドバイスを受けながら、作業のポイントやコツ、注意点などの作業を見学・体験
- 生産者同行によるほ場巡回で、生産者間の横のつながりが構築され、お互いの生育状況の確認や相談を行うなどの成果

2 地下水位の「見える化」でかん水の適正化

- 講習会や巡回時に縦穴の活用方法を周知し、順次設置したことで**設置件数が前年比で約1.5倍に増加。生産者の約6割が「見える化」に取り組む**。
- 香川県農業試験場が作成したかん水管理マニュアルを用い、縦穴を活用した水管理を指導することで、農家自らが縦穴の水位を確認しながらかん水量を調節し、**単収が前年比で約1.3倍になった生産者も**。



新規生産者向け現地講習会を開催



ベテラン生産者から翌年に向けて収穫の仕方を学ぶ



縦穴を覗いて水位を確認

普及指導員の活動

令和4年度

- 令和4年に定植した生産者を対象にした擬葉選定（刈取り）の栽培講習会を開催するとともに、次年度定植する生産者にも参加してもらい、イメージを深めてもらう。
- 放置されている**縦穴の改修と新規設置を指導**。

令和5年度

- 新規生産者を対象にした定植と刈取りの現地講習会を行うとともに、生産者同伴での巡回指導を実施。
- 新規生産者のほ場をJAの担当と協力して、**月に1回程度巡回して細かな指導**を実施。
- **縦穴を活用した水管理を周知・実演**。

令和6年～

- 令和6年定植の新規生産者への指導と定植2年目以降のフォローアップを実施。

普及指導員だからできたこと

- ・ 日頃、ベテラン生産者から新規生産者まで様々な生産者とかかわりがあるからこそ、両者をつなげることができた。
- ・ 現場に近い立ち位置にいることから、現場課題の抽出と解決策（試験研究機関の成果）をマッチングすることができた。

アスパラガス生産の拡大と新規生産者支援

活動期間：令和4年度～継続中

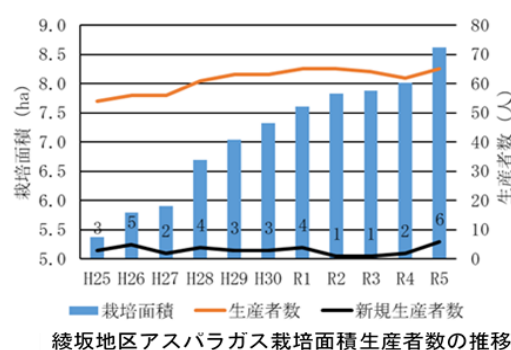
1. 取組みの背景

綾坂地区（綾川町・坂出市）では約 8.6ha の栽培面積で、66 名の生産者によりアスパラガス栽培が行われている。当地区では綾川町を中心に 1～2 月の高単価な時期を狙った出荷が特徴であり、香川県内でも特に早い時期から出荷が行われている。また、高齢化により栽培を取りやめる生産者がいる一方で、近年は有利販売が可能な本県オリジナル品種「さぬきのめざめ」に魅力を感じた若手生産者を中心に新規での栽培を希望する者が増えている。令和5年度には新規生産者 6 名（約 60 a）により新たな栽培が開始されるなど、産地全体の栽培面積が拡大しており、一層の発展が期待されている。

一方で、生産部会ではベテラン生産者と新規生産者とを区別せず研修会等が行われているため、初めてアスパラガスを栽培する新規生産者には理解しにくい内容となっていることや新規生産者が急激に増えることで、生産者間のつながりが希薄となりつつあり、相談できる相手がいないため、栽培管理や病害虫への対応が遅れるという問題も発生している。

また、アスパラガスの収量を向上させるためには土壌水分環境を良好に保つ水分管理が必要であるが、本県で主力となっている高うね栽培ではりん芽部や多くの根が存在するうね内は乾燥しやすく、かん水不足による収量の減少も見られる。

これらの問題を解決し、今後も継続的に産地を発展させていくためには、生産者が自身のほ場状況を把握し、適切に管理できるようにすることが必要である。そこで、普及センターでは新規生産者の早期安定生産に向けた支援と地下水位の「見える化」によるかん水の適正化に取り組んだ。



2. 活動内容（詳細）

（1）新規生産者の早期安定生産に向けた支援

新規生産者が早期に技術を習得するためには、ベテラン生産者と連携して現地で直接指導し、体験・理解させることが重要であると考えた。そこで、J Aや部会長などの高い技術を持つ生産者と協力して、新規生産者を対象とした現地講習会を年2回（植付け時期、刈取り時期）開催した。また、お互いのほ場やベテラン生産者のほ場を見ながら意見交換をすることで自身の栽培について考える機会を提供するとともに、生産者間のつながりを構築できると考え、新規生産者と共にほ場を巡回した。

（2）地下水位の「見える化」でかん水の適正化

数年前から地下水位の見える化を推進するため、普及センターとJ Aが協力して数件の生産者のほ場の通路に深さ 50～60 cmの縦穴を掘っていたが、活用方法がわからずに放置される事例が見られていた。そこで、講習会で縦穴の活用方法を周知し、巡回指導の際に実際に縦穴を確認しながらかん水指導を行った。また、巡回時に縦穴の設置状況と要望を調査し、希望者のほ場に縦穴を掘り活用方法を指導することで地下水位の「見える化」と適切なかん水について推進をした。

3. 具体的な成果（詳細）

（1）新規生産者の早期安定生産に向けた支援

現地講習会では、ベテラン生産者のアドバイスを受けて、部会活動で行われている講習会だけでは分からない作業のポイントやコツ、注意点などを学びながら作業を見学・体験することで作業イメージの定着が図られた。また、ベテラン生産者との交流が生まれ、栽培を行っていくうえで疑問に思ったことを気軽に相談できるようになるなどベテラン生産者と新規生産者のつながりを作る場にもなった。



ベテラン生産者から来年に向けて収穫の仕方を学ぶ

(2) 地下水位の「見える化」でかん水の適正化

講習会や巡回時に縦穴の活用方法を周知し、設置希望者を募って、順次設置したことで設置件数が前年比で約 1.5 倍に増加し、設置率は約 6 割となった。生産者自身で圃場の大まかな特性を把握できるように縦穴の使用方法的フローチャートを用いた講習会を行い、あわせて、巡回時に実際に縦穴を使用してかん水指導を行ったことで、生産者が自ら縦穴の水位を確認しながらかん水量を調節するようになり、ほ場に合わせたかん水管理ができるようになった。



縦穴をのぞき込み地下水位を確認

4. 農家等からの評価・コメント（綾川町 新規生産者 K 氏）

当初はアスパラガスについて何も分からないまま始めたため、何をしたらいいのかも分からず困っていた。しかし、長年栽培をしてきた先輩からアドバイスをもらったり、一緒に始めた仲間と相談をしながら進めることで不安が少なくなった。将来的には新しく始めた人にアドバイスができるように成長していきたい。

5. 普及指導員のコメント（中讃農業改良普及センター 技師 平井秀明）

アスパラガスは多年生植物であり、何か問題が起きた際にその影響を何年も引きずる可能性があることから、生産歴が浅い生産者の技術力の向上が急務となっている。当産地においては毎年新規生産者の参入があることから、引き続き新規生産者の早期技術習得に向けた取組みを行っていく。

6. 現状・今後の展開等

綾坂地区では毎年新しい生産者がアスパラガスの生産を始めていることから、引き続き現地講習会などの実践的な技術習得の場や交流の場を提供し、新規生産者の早期安定生産に向けた取組みを実施していく。また、綾坂地区の部会員の 2 割以上を占めるアスパラガスの生産を始めて 5 年目以内の生産歴の浅い生産者に対しても支援の対象として拡大し、産地として技術力を底上げすることで、アスパラガスの生産を拡大し、継続的な産地の発展を支援する。